

C O N T E N T S

シンボルマーク・プロフィール.....	1
頭取あいさつ.....	2
経営理念・福邦の心	3
当行の考え方.....	4
トピックス.....	5
平成16年度業績ハイライト.....	6
地域貢献への取り組み.....	8
地域への融資の取り組み／地域サービス充実への取り組み／地域振興への取り組み	
より信頼をいただくための取り組み.....	15
資産の健全化に向けて／リスク管理体制／コンプライアンスに対する考え方／個人情報保護体制 ほか	
資料編.....	21

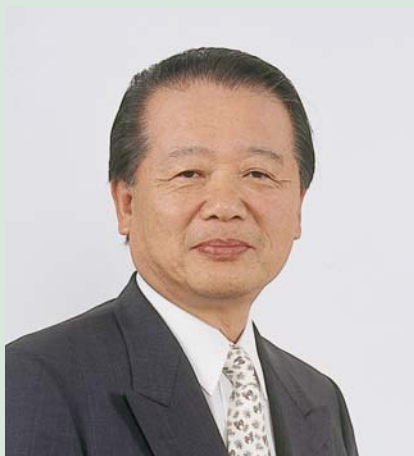


シンボルマーク

当行は平成元年にCI計画を導入し、このシンボルマークを使用しております。
このマークは、皆様と当行の固い信頼関係の上に、共に発展していくため、
当行のイニシャルである「F」をダイナミックにシンボル化したものです。
グリーンの三角は地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、
皆様と当行のふれあいを表しております。
この三角と円のハーモニーによって、全体にイメージされる「F」のデザインは、
地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の
決意を示しております。

プロフィール (平成17年3月末現在)

名 称	株式会社 福邦銀行 THE FUKUHO BANK, LTD.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創 立	昭和18年11月5日
資 本 金	43億円
預 金	4,419億円
貸 出 金	3,470億円
発行済株式総数	31,800千株
自己資本比率	9.04% (国内基準)
店 舗 数	51ヵ店
キャッシュコーナー	112ヵ所
従 業 員 数	598名
ホームページ	http://www.fukuho.co.jp
金融機関コード	0537



信頼第一の銀行を目指し 地域に貢献してまいります。

平素より私ども福邦銀行を格別にお引き立ていただき誠にありがとうございます。

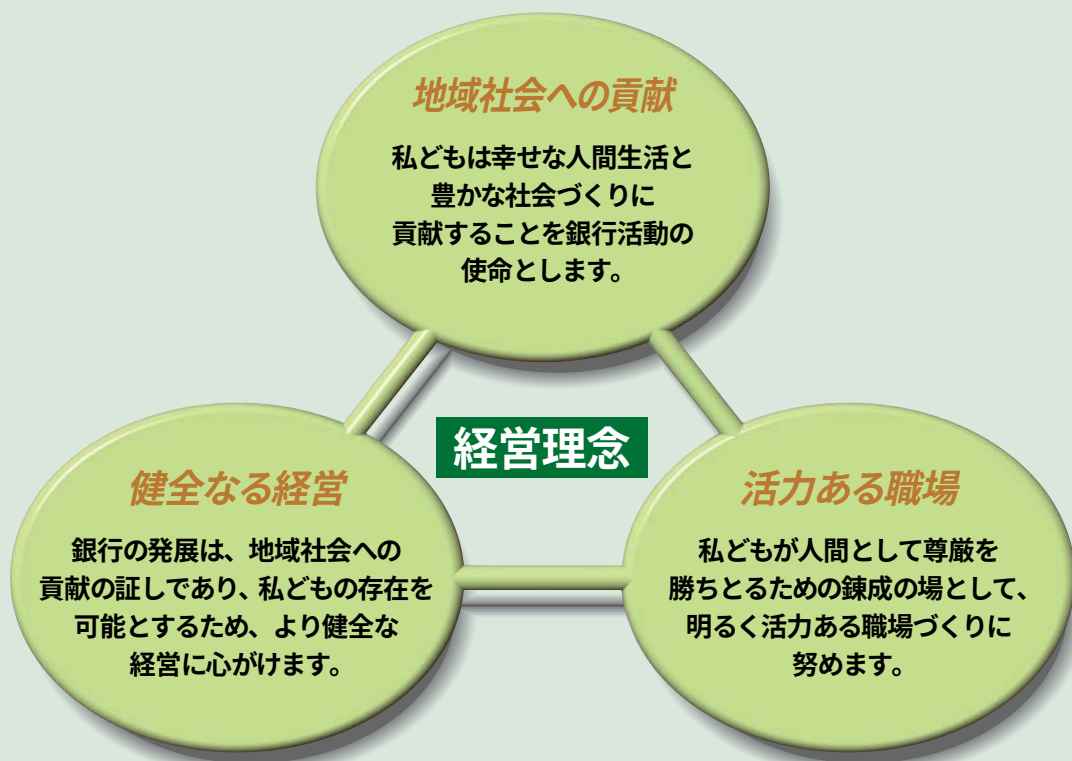
当行は、昭和18年の創立以来、地域社会への貢献のため健全な経営を続け、皆様と共に発展を遂げてまいることができました。これも、ひとえにお取引先、株主の皆様をはじめ地域の皆様のお陰でございます。心から厚くお礼申し上げます。

このディスクロージャー誌「FUKUHO REPORT 2005」は、当行の経営方針、最近の業績や活動状況について、できるだけ分かりやすくご説明させていただくことを心がけて作成いたしました。当行が何を目指し、どのように取り組んでいるのか、皆様のご理解をより一層深めていただければ幸いです。

現在、当行は、金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供していくため「第六次中期経営計画“ふくほうSpirit”」をスタートさせ、健全な経営体質の構築を基本方針に「収益力の強化」「リスク管理の強化」「人材養成」を重点課題として取り組んでおります。引き続き健全な経営に徹し、「信頼第一の銀行」を目指し、地域社会の発展に貢献してまいります。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻と、なお一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 三田村俊文



至誠の心
信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。

福邦の心

和の心
お互いの立場を理解し、喜びを分かちあう心を育てます。

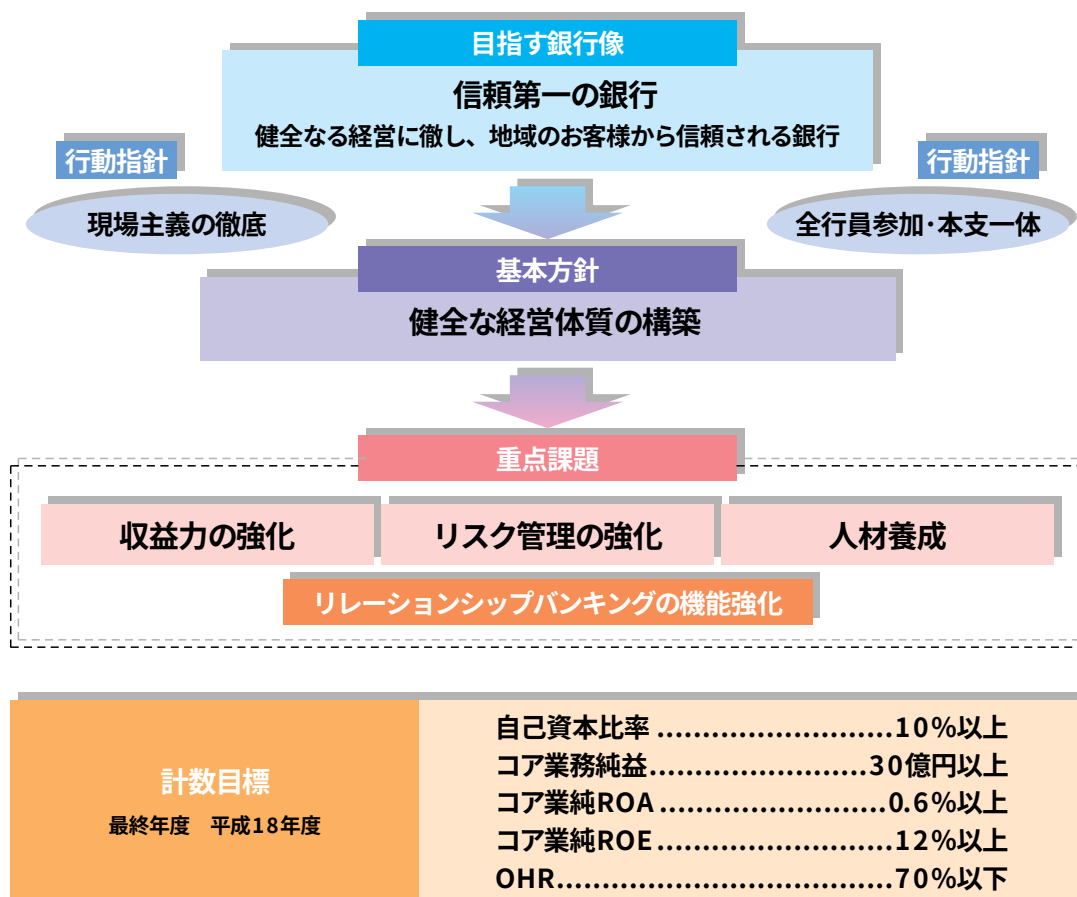
進取の心
変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。

共存共栄の心
お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

■第六次中期経営計画「ふくほうSpirit」

名称、期間、基本的考え方

- 名称：第六次中期経営計画「ふくほうSpirit」
- 期間：平成16年4月～平成19年3月：3カ年計画
- 基本的考え方：金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供するため、地域に根差した営業体制を強化し、収益性の高い健全な経営体質を構築する。



■「リレーションシップバンキングの機能強化計画」および「地域密着型金融推進計画」について

当行では平成15年8月、金融庁の「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」を受けて、平成15年度から16年度までの2年間を集中改善期間とした「リレーションシップバンキングの機能強化計画」を策定しました。

同計画では「中小企業の育成・支援・再生に向けた態勢強化」「中小企業取引基盤の拡充」「地域貢献とディスクローチャーの充実」を基本的方針として、企業支援・事業再生を専門とする企業経営支援室や事業融資推進体制の整備・強化に向けた法人営業部の設置、審査能力の向上を目指した人材育成、ガバナンス強化のため、「適時開示マニュアル」の策定と株式公開銀行と同様の開示計画の実現に向けた取り組みを着実に進めてま

いりました。

「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の要約と進捗状況（要約）、経営改善支援の取り組み実績等は、当行ホームページ（<http://www.fukuho.co.jp>）でご覧いただけます。

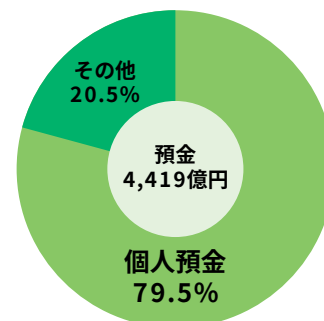
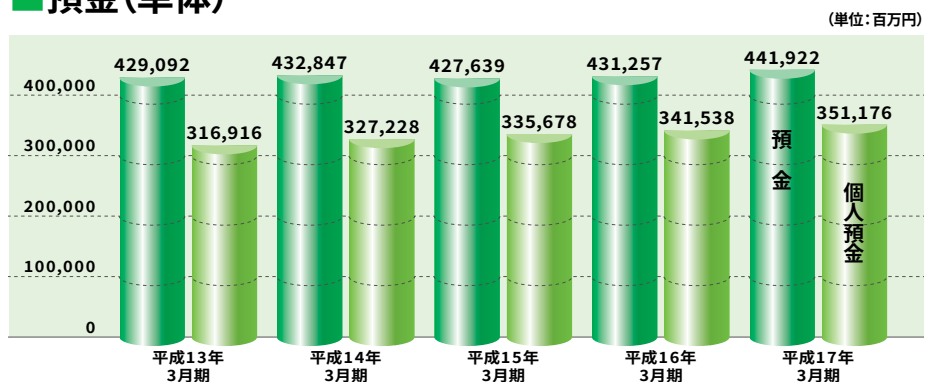
平成17年度からは新たに、金融庁の「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」を受けて、18年度までの2年間を重点強化期間とする「地域密着型金融推進計画」の策定を進め、実施してまいります。事業再生・中小企業金融の円滑化、経営力の強化、地域の利用者の皆様の利便性向上に取り組む、より一層、地域密着型金融を推進してまいります。

トピックス(平成16年4月～17年3月)

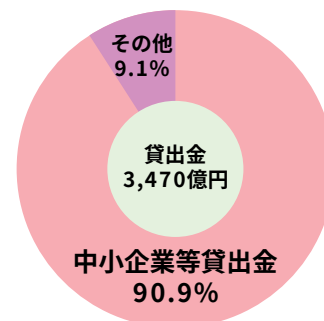
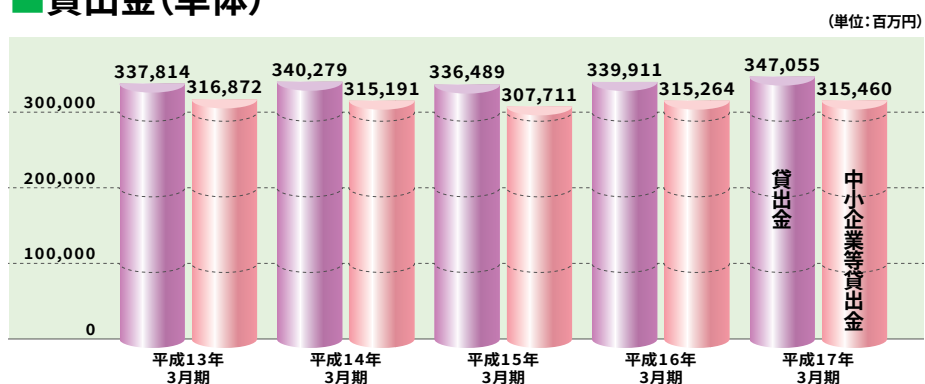
経営・営業関係	店舗	月	新商品・新サービス	キャンペーン
●第六次中期経営計画「ふくほうSpirit」スタート ●「法人営業部」新設 ●制服を一新 ●平成16年3月期 業績予想の修正を発表		16年 4		マイカーローンの金利優遇キャンペーン
●平成16年3月期 決算短信発表 ●「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の進捗状況の要約をホームページで公表		5	●福井県信用保証協会特別保証制度「スピード保証」の取扱開始	
	●福井警察署 ATM設置	6	●「第20回宝くじ懸賞付定期預金」発売 ●「宝くじ景品付定期預金」発売 ●「リスク軽減型 定期分配インデックス参照ファンド2004-7 単位型株式投資信託/バランス型(プランナー)」取扱開始	
●7月18日の集中豪雨による災害に対する金融上の措置を講じる ●2004ディスクロージャー誌「FUKUHO REPORT 2004」、ミニディスクロージャー誌「こんにちは福邦銀行です」を発行		7	●福井豪雨災害罹災者の方に対する復旧支援融資の特別対応として「災害特別リフォームローン」「災害特別マイカーローン」「緊急災害復旧支援事業資金(復旧支援ローン)」の取扱開始	
●平成17年3月期 第1四半期情報の開示		8		
●富山第一銀行小松支店 営業譲受けを完了		9	●「リスク軽減型 定期分配インデックス参照ファンド2004-10 単位型株式投資信託/バランス型(プランナーII)」取扱開始 ●なんでもザウルス「カードローン」発売 ●ふくほう事業者ローン「勇士500」発売	
●収益拡大特別推進運動 “ふくほうSpiritでコア30 運動スタート”	●小松支店 ATM稼動日時延長	10		
●「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の進捗状況の要約をホームページで公表 ●平成17年3月期 中間決算 短信発表	●舞鶴支店 新築移転オープン ATM稼動日時延長	11	●「第21回懸賞金付き定期預金」発売 ●「金利上乘せスーパー定期預金」発売 ●ふくほうビジネスローン「勇士2000」発売	
●2004中間期ミニディスクロージャー誌「こんにちは福邦銀行です」を発行		12		
		17年 1		
●平成17年3月期 第3四半期情報の開示		2	●学資ローン「まなび隊!」発売 ●「決済用普通預金」取扱開始	春のわくわく キャンペーン
	●福井県立病院 CD新設	3	●投資信託「チャイナ・ロード(西遊記)」取扱開始 ●ATM・CDでの支払い限度額の引き下げ	

平成16年度 業績ハイライト

■預金(単体)

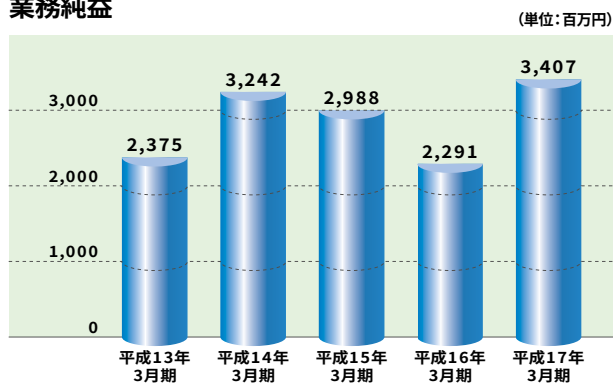


■貸出金(単体)

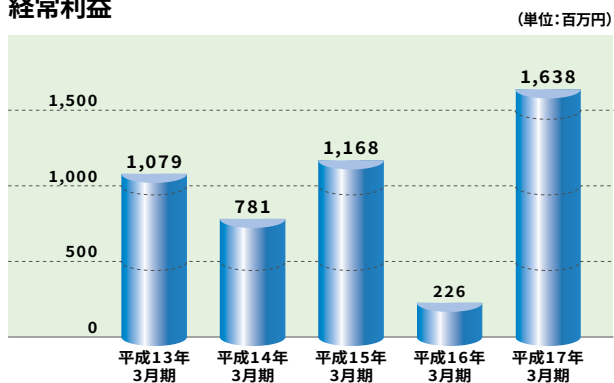


■利益(単体)

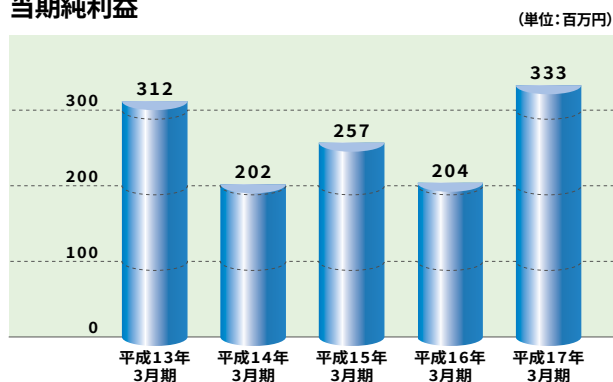
業務純益



経常利益



当期純利益



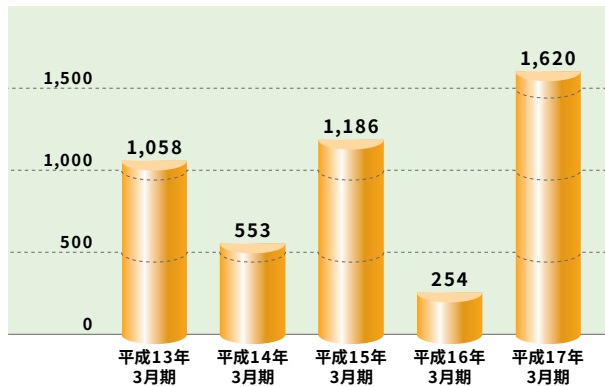
単体での決算状況

預金は、個人預金の増加を主因として、前期末比106億65百万円増加し、期末残高は4,419億22百万円となりました。また、貸出金は資金需要の低迷から事業性融資が伸び悩んだものの、住宅ローンを中心とした個人ローンが順調に推移した結果、前期末比71億43百万円増加し、期末残高は3,470億55百万円となりました。損益状況につきましては、業務純益は前期比11億15百万円増加して34億7百万円、経常利益は前期比14億12百万円増加して16億38百万円、当期純利益は前期比1億29百万円増加して3億33百万円となりました。

■利益(連結)

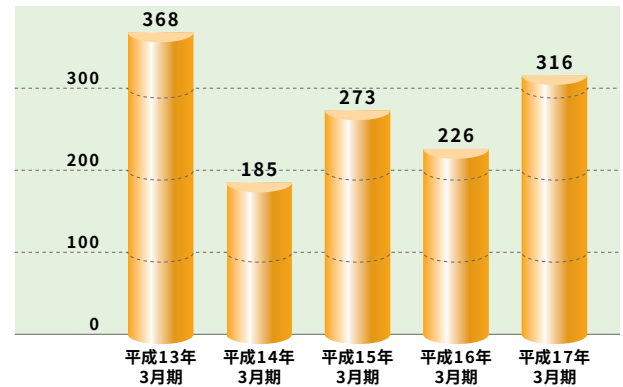
連結経常利益

(単位:百万円)



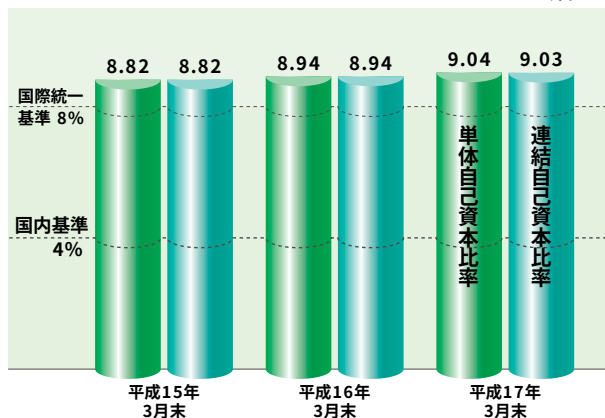
連結当期純利益

(単位:百万円)



■自己資本比率(国内基準)

(単位:%)



自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられています。平成17年3月末のリスク・アセット(万一の場合、貸倒れの危険性のある資産)に対する自己資本の額は銀行単体・連結ともに227億円、自己資本比率は単体9.04%、連結9.03%となっています。

※当行は、負債性資本(劣後ローン・劣後債など将来の返済が必要なもの)を取り入れておりません。

■配当政策

当行は従来から、銀行業としての公共性に鑑み、長期にわたって安定経営に努めるとともに、配当につきましても安定した配当の継続を基本方針としています。この方針に基づき、当期におきましても、中間配当を1株当たり2円50銭、期末配当金は1株当たり2円50銭とし、年間5円といたしました。今後も引き続き内部留保の充実による財務体質の強化と営業基盤の拡充を図り、一層の収益向上に努め、株主各位のご期待に添うべく努力してまいります。

用語解説

業務純益

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一般貸倒引当金繰入額を差し引いたものです。

経常利益

不良債権の処理や有価証券の売買などの活動も含めた通常の活動による利益です。

当期純利益

上記の経常利益から特別損益と税金を加減した最終的な利益です。